



令和5年度 8月の園だより



子ども時代は、やりたいときが成長するとき

公園から聞こえてくるにぎやかな蝉の声。そして、空を見上げると、澄んだ青空には、白くてもくもとした“わた雲”や“入道雲”が浮かんでいます。いよいよ夏本番。子どもたちとこの季節ならではの風景を全身で感じながら過ごしていきたいと思います。

7月に入り、ヘルパンギーナや胃腸炎、アデノウイルスとさまざまな感染症が流行し、体調を崩されるお子さんも増える中、保護者の方もお子さんの体調に気がきではない毎日であったのではないのでしょうか。また、先週より、新型コロナウイルスの感染が広がり、皆様には大変ご心配をおかけしております。これから暑さが厳しくなり、熱中症なども心配されますが、こまめな水分補給や休息を取り入れていきながら、一人ひとりの体調に気をつけ、毎日を過ごして参ります。ご家庭においても、「早寝、早起き、朝ごはん」と規則正しい生活習慣を心がけながら、子どもも大人も元気に暑い夏を過ごしていきましょう。

さて、7月28日29日に第二みみょうこども園の年長さんが、北広島町にある順源会のログハウスに1泊2日でお泊り保育にきました。雄大な自然の中で、自分で研いだお米を飯盒で炊いたり、みんなでブルーシートの上に寝転がって星空観測をしたり、農園でとうもろこしを収穫するなど、普段できない経験を友だちと共に行ってきました。お泊り保育は、こうしたさまざまな体験から、仲間と力を合わせチャレンジしたり、助け合いながら、自分たちだけで一晩を過ごせたという達成感を味わったり、身支度など保護者がいなくても自分のことは自分ですることで自信をもつなどをねらいとしています。

みみょう保育園の子どもたちにとっては、まだ先のお話のようですが、これは年長になるから培われる力ではなく、赤ちゃんの時から身体と心の育ちのプロセスがとても大切になってくるのです。特に生活習慣の自立は、乳児期の自分でやりたい時期や2歳頃の「いやいや」

という自我の芽生えの時期に、側にいる大人がどのように関わっていくかで子どもたちの意欲が大きく変わっていきます。例えば、こじか組さんは、今自分でやりたい気持ちが芽生えています。着脱では、自分の足をズボンの穴に入れようと試行錯誤し、必死で何度も挑戦しています。その姿に大人はつい手助けしたくなりますが、園では、少し待ち子どもたちの“やりたい”を尊重します。時間がかかっても自分でできた時の達成感、子どもにとって格別で、その時に見せる表情は何とも言えないくらい頼もしいです。また、きりん組さんは、7月から始まった水あそびが楽しみで、毎日プールバックを肩にかけ「今日もやるぞ!!」とわくわくしながら登園してきています。着替える際にも、担任が声をかけたとたん自分から準備を始めています。着脱はもちろん、洋服の片付けも…。楽しみなことがあれば自分の持ち物の準備や管理も、自然と意欲に繋がっていき、やらされるのではなく自分でやりたいと感じながら身についていくのです。生活習慣の自立は、できないで判断してしまいがちですが、子どもたちをやりたくなる気持ちにさせることが大切だと思っています。

また、そこには必ず側に、大好きな大人の存在が必要です。子どもの姿に合わせて褒めたり、認めたり、時には見守ったりし、大好きな大人の愛情をたっぷり注いでいきましょう。そして、乳児期に生活習慣の基礎を、しっかり身につけていくと、その後の学習意欲はもちろんですが、様々なことに主体的に取り組む力になるともいわれています。子どもたちの今は今しかありません。毎日の子どもたちのやりたい原動力を見逃さず、共に楽しみ向き合っていきましょう。

園長



子育て応援メッセージ

抱きしめるだけで
愛は伝わる



子どもはお母さんにギュッと抱きしめられると、そこからお母さんの優しいぬくもりがたくさん伝わって、とってもとっても心が落ち着きます。とくに小さい時はたくさんふれあってください

いろは出版 宇津崎光代/知見 著
「だいじょうぶだよおかあさん」

やりたいこといっぱい！
探求心を高める、楽しい夏のおそび
まだまだ楽しんでいきます。



せんせいみてみて



きもちいいー



なんでだろう

9月の予定

- 9日(土) 保育参観・講演会
- 15日(金) 避難訓練・誕生日会

